

震災発生から7ヶ月が過ぎました。青森県、岩手県の沿岸地域では、ほぼ全ての避難所が閉じられ、新たに仮設住宅での生活が始められています。



◆津波で乗り上げ、10/20に7ヶ月ぶりに海に戻された釜石港の大型貨物船。

その状況の中で、チーム青森・岩手も新たな体制で支援活動に取り組んでいます。今後は北海道連合の方々の助けも借りながら、現地に立てられている青森・岩手の諸教会がより協力し合って支援活動が展開されていく予定です。また、10月から遠野ボランティアセンターに専任スタッフが着任しました。チーム青森・岩手においても、現地支援委員会においても、良い協力関係が築かれるようお祈りください。

あんどう 大槌町安渡仮設住宅訪問活動

(盛岡教会:大須賀真人)

当日は晴れ。カフェを開始した11:30頃には、気温20℃を超える大変暖かい日だった。カフェ設置の働きに、仮設住宅の住人の方も積極的にお手伝いしてくださった。

カフェ開始のアナウンスに、それぞれの住宅から住人の皆様が出てくる。慣れ親しんだ顔ぶれに心が和む。90歳のおばあちゃんと韓国スター大好きおばあちゃんの姉妹などなど、13名の方たちが集まってくださった。

コーヒー、お茶を片手に話がはずむ。これから冬にむけての準備について気になるところだったが、大槌町ではストーブが支給されるとのこと。しかし、狭い仮設住居内に、ストーブまで置いたら火の元の不安がでてくるとの声も聞かれた。その後、相模中央教会の女性二人がリードして、童謡、演歌、歌謡曲など皆で一緒に歌う。今回カフェに集まれた皆さんは、私たちが“バプテスト教会の人達”ということで、好意的に受け入れてくださっているように感じる。震災後の祈りと活動によって、このような関係が与えられていることに本当に感謝である。一方で、今回のカフェに来られなかった皆様がいることも覚えて、今後もこのような活動を続けていければと思う。今本当に助けを必要としている人がいるということを常に持ち続けていきたい。(盛岡教会:吉田尚志)



青森・岩手チームの話し合い



野田村仮設住宅訪問活動

岩手県北部沿岸にある「野田村」の仮設住宅に、これまで3回の訪問活動が行われています。野田村は、人口5千人ほどの村です。あまり報道などで取り上げられることはありませんが、津波の被害は、他の地域と同様に深刻です。第1回は、8月9日(火)、函館美原教会7名、室蘭教会1名、鮫教会3名の計11名で、野田中学校仮設住宅(約115世帯)、泉沢地区仮設住宅(約30世帯)を訪問し、かき氷やアイスコーヒーとクッキーなどを提供させていただきました。第2回は、9月20日(火)、鮫教会7名、八戸教会4名、カルバリー教会2名、三沢教会1名、函館美原教会1名の計15名で、まず野田中仮設の集会所で、コーヒーやクッキーを用意してお茶会(参加者約50名)を行い、お花をお届けしました。その後、泉沢仮設にも、お花をお届けしました。第3回は、10月15日(土)、鮫教会9名、八戸教会1名、函館美原教会2名、苫小牧伝道所1名の計13名で、野田中仮設の集会所で、お茶とおまんじゅう、シュークリームなどを用意してお茶会(参加者約60名)を行いました。また、北海道産のメークインも、全世帯にお届けしました。さらに泉沢仮設と門前地区仮設住宅(約15世帯)でも、メークインやお菓子を戸別訪問でお届けしました。



この活動は、最初、函館美原教会の活動として始められましたが、青森・岩手チームと北海道連合との協働の活動になるようにと、林健一牧師(鮫)を代表として立て、徐々に体制を整えているところです。礼拝をもって始め、みことばと祈りに根ざすことを大切にしながら続けています。仮設住宅におられる方々との交わりを丁寧に育みながら、月一回の継続した訪問を目指しています。定期的な傾聴ボランティアは、今後さらに重要になっていくと思います。お祈りに覚えていただければ幸いです。

(函館美原教会:福田雅祥)

気仙沼階上小学校側仮設住宅訪問活動

3月11日の地震と大津波はあまりにも被害が大きく、ただ圧倒されるばかりでした。そんな中、当教会のS姉のご親戚が家を失い避難所生活をよぎなくされていましたが、8月末仮設住宅に移られました。引越しを手伝ってきたS姉の、「私たちが仮設住宅の方々のために何か出来ないかしら」という一言から、無料バザーをしようという計画が八戸教会の女性会によって立ち上げられました。

現地の情報はS姉のお義姉さんから協力いただきました。呼びかけに答えてたくさん衣料、雑貨類が集まり、支援用の車が貸与され、大須賀先生や青森教会の姉妹4人、教会員のご主人など協力して下さる方々によってこの計画が実行できました。本当に感謝の一言です。バザー当日は、ガレキ撤去作業が休みの日もあって70~80人の方々がおいでになり車5台で持っていった物資はほとんどなくなりました。喫茶コーナーではお茶、おまんじゅう、クッキーでゆっくりお話をしていられました。みなさん明るくしておられました。すべてを失ったショックや生活の厳しさがことばの端々に感じられて心が沈みました。

この活動を仮設住宅がなくなるまで年2回続けていきたいと思っています。1回目のバザーを通して、皆さまへの祈りなくては何もできないことを強く教えられました。(八戸教会:甲谷裕子)



キルト作りボランティア

遠野VC スタッフ着任!



遠野ボランティアセンター 専任スタッフ 佐藤浩さん 有子さん夫妻

この度、遠野ボランティアセンターの専任スタッフの任につくことになりました佐藤浩です。

今回の震災被災地復興は、5年がかりとも10年がかりともいわれています。どれほどのことができるかわかりませんが、少しでも復興の手伝いが、特に傷つき疲れている人たちに寄り添うことができればと思っています。どうぞお祈りください。

祈りの課題

- ◆沿岸地域にイエス・キリストの御からだなる教会が与えられますように。
- ◆遠野ボランティアセンター専任スタッフの働きと家族との生活が守られますように。
- ◆諸教会の支援活動と出会いと交わりが守られますように。
- ◆北海道連合との良い協働によって、支援活動が守られますように。